

平成19年11月13日

各 位

会社名 株式会社名村造船所
代表者名 代表取締役社長 名村 建彦
(コード番号 7014 大証 第1部)
問合せ先 取締役兼常務執行役員経営業務本部長
名村 建介
(TEL 06-6543-3561)

業績予想の修正について

平成20年3月期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)の業績予想につきまして、平成19年5月18日決算発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。

1. 連結業績予想の修正について

平成19年9月中間期(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

(以降の記載金額は百万円未満は四捨五入して表示しております)

	単位	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表(A)	百万円	44,000	2,900	2,800	1,500
今回修正予想(B)	百万円	47,369	3,711	3,717	1,976
増減額(B)-(A)	百万円	3,369	811	917	476
増減率	%	7.7	28.0	32.8	31.7
ご参考:前中間期(H18.9)実績	百万円	39,982	76	67	417

2. 単体業績予想の修正について

平成19年9月中間期(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

	単位	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表(A)	百万円	34,500	1,800	1,700	900
今回修正予想(B)	百万円	34,863	2,857	2,828	1,650
増減額(B)-(A)	百万円	363	1,057	1,128	750
増減率	%	1.1	58.7	66.4	83.3
ご参考:前中間期(H18.9)実績	百万円	30,346	1,201	1,181	1,136

平成20年3月通期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	単位	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表(A)	百万円	84,000	5,800	5,700	3,200
今回修正予想(B)	百万円	85,000	7,800	7,800	4,300
増減額(B)-(A)	百万円	1,000	2,000	2,100	1,100
増減率	%	1.2	34.5	36.8	34.4
ご参考:前期(H19.3)実績	百万円	73,594	2,995	2,975	1,849

3. 修正の理由

中間期業績予想修正の主たる理由は、連結財務諸表提出会社(当社)の業績予想の上方修正であります。

当社の売上高におきましては、当中間期売上船の未ヘッジ外貨は1米ドル当たり110円を前提としておりましたが、円安傾向が続いたこと等により期初計画を上回ったものの、鉄構事業および環境システム事業において受注・完工共に低調に推移したことにより、若干の増加にとどまりました。

一方、営業利益、経常利益につきましては、船舶事業において上述の売上高の増加に加え、下半期売上予定船の一部を対象とする受注工事損失引当金が円安により減少したこと、全社一丸となったコスト削減運動、第一次大型設備投資による増産設備の効率向上等により製造原価を削減することができたことにより大きく改善することができました。

その結果、中間純利益におきましても経常利益の増加に伴い期初計画の大幅な改善となりました。

通期業績予想(単体)の修正につきましては、中間期業績予想の修正に加え、下半期も売上予定船について未ヘッジ外貨の為替予約を期初計画より円安で実行できたことや製造原価の削減が期待できることによるものであります。

通期業績予想(連結)につきましては、子会社事業構造改革の費用発生や影響、函館どつく株式会社の連結子会社化の影響等が見込まれるため、既報値のまま据え置きといたしました。

なお、函館どつく株式会社の連結子会社化による影響は現時点で予測可能な限り織り込んでおりますが未確定事由もあり、業績予想の変動が生じた場合は速やかに別途発表いたします。

なお、本公表時において下半期に竣工引渡しを予定する船舶の売上に係る未ヘッジ外貨は35百万米ドルであり、1米ドル当たり110円を前提としております。

上記予想は本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、経済情勢・為替相場変動によるリスク等不確定要因により、実際の業績は記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上